中部地方におけるインバウンド観光の季節的変動に関する一考察
ー台湾からのバスツアーを中心にー

A STUDY ON THE SEASONAL VARIATION OF INBOUND TOURISM IN CHUBU AREA, JAPAN:
FOCUSED ON THE BUS TOUR FROM TAIWAN

澁谷鎮明（中部大学）

SHIBUYA, Shizuaki

＊2019年度日本観光研究学会大会にて発表済

1.はじめに

- 本報告は、①中部地方を訪れる外国人観光客の季節的変動と、②それによる地域の観光地への影響の一端を明らかにしようと試みるものである。その際に、以前より行われている、中部地方を周回する台湾からのバスツアーの動向を手掛かりに研究を進めることとする。
- 観光の季節変動については、観光研究の中で以前から取り扱われてきた基本的なテーマ。

⇒オフシーズンやハイシーズンの存在と収益のリスクなど

⇒スキーや海水浴など季節性の強いレジャー

⇒これらのレジャーに対応した民宿村、スキー集落形成など地域への様々な影響

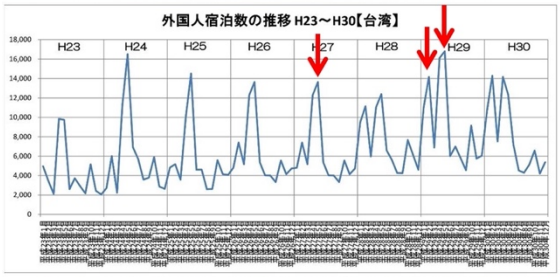

図2　高山市における宿泊者数の季節的変動（台湾）
（高山市観光統計、2019より）

1.はじめに

- このような季節的変動は後述のように、黒部立山アルペンルートが開通する時期に台湾からの観光客集中が要因。

⇒人気の黒部立山アルペンルートを通過するバスツアーが4-5月に集中

- 休暇の時期だけではなく、外国人観光客の嗜好や文化社会的背景に関わる？

⇒理解しにくく、予想がつきにくい現象であるとも言え、日本のインバウンド観光研究において詳細に追究すべき課題の一つではないか。

⇒「いったいなぜこの時期に来ようとするのか？」

2.中部地方のインバウンド観光とバスツアー

- 張娜ほか（2013）・澁谷（2014）；太平洋側から日本海側を周回する**台湾や香港からの団体ツアーが多数訪れる。**
- 観光関連業者によると、2005年の愛知万博開催、2007年の東海北陸自動車道の全線開通の時期に、立山黒部アルペンルートが**台湾の観光客**に人気となり、**現在のようなツアールートが形成され、それ以降台湾では人気のコース**（澁谷ほか、2015）。
- 図3に示すように、アルペンルート、北陸の温泉地、そして主として名古屋にある免税品店がコアとなる目的地であり、**歴史、自然景観、体験などのバランス**をとりながら、各地の観光目的地を組み込んだルートが設定される（澁谷ほか、2015）。⇒香港、中国大陸、韓国のツアーも？



立山黒部アルペンルートの台湾向けパンフレット：**「雪の大谷」**2006年頃より台湾で高い評価。

⇒「雪の大谷」が見られるのは，日本のゴールデンウィークに合わせた除雪が済んだ**4月末から5月末**。
⇒この時期に台湾からのツアーが集中。



台湾・香港からのバスツアーの目的地（澁谷、2014）

3.台湾からのバスツアールートの季節的変動

- ところで、このようなバスツアーのルートに組み込まれる観光目的地の中には、**冬季に休業**してしまい、利用できなくなるものが多い。
- 中でも、最も重要な立山黒部アルペンルートや、上高地が冬季に閉鎖されてしまうことで、台湾からのバスツアーは、**冬季にルート変更を余儀なくされる。**

⇒ツアーを冬季も維持しようとすれば、新たな目的地が必要となり、ロープウェイ、スキー場での雪遊びなど雪に関係した施設や、商業施設が選択される？

←台湾からの中部地方ツアーの事例1：
「秋恋阿爾卑斯」(10月出発)

出発地	台北
価格	32,800NT$(約11万円)
1日目	台北→中部空港 中部空港→牧歌の里→高山温泉 高山泊
2日目	高山→白川郷→金沢市内(兼六園・東茶屋街)→富山 富山泊
3日目	富山→称名の滝→立山黒部アルペンルート→松本or いは白馬近辺 松本or いは白馬泊
4日目	松本・白馬→上高地→名古屋(免税店・熱田神宮・栄) 名古屋泊
5日目	名古屋→常滑→中部空港 中部空港→台北

K旅行

台湾からの中部地方⇒ツアーの事例2
「北陸名花彩燈季」(12月出発)

出発地	台北
価格	29,300NT$(約10万円)
1日目	台北→中部空港 中部空港→高山(古い街並) 高山泊
2日目	高山→ロープウェイ→スキー場(雪遊び)→金沢市内(兼六園・東茶屋街) 金沢泊
3日目	金沢→白川郷→郷上八幡→名古屋(免税店・熱田神宮・栄) 名古屋泊
4日目	名古屋→熱田神宮→徳川園→ジャズドリーム長島→なばなの里→名古屋 名古屋泊
5日目	名古屋→中部空港 中部空港→台北

K旅行社HPより作成

3.台湾からのバスツアールートの季節的変動

- このような冬季用のルートに「スイッチ」するのは、アルペンルートが閉鎖される12月である。そしてアルペンルートが開通され「雪の大谷」ができるゴールデンウィーク前（4月）には、冬季用のルートから、アルペンルートを通過する本来のルートに再度切り替えられる。
- また図2に示した、高山市の台湾からの宿泊者数の推移をみると、以前は4月だけにピークが認められたが、近年は2月にもピークが見られるのは、春節の休暇とともに、このようなルートの利用も影響してはいないだろうか。





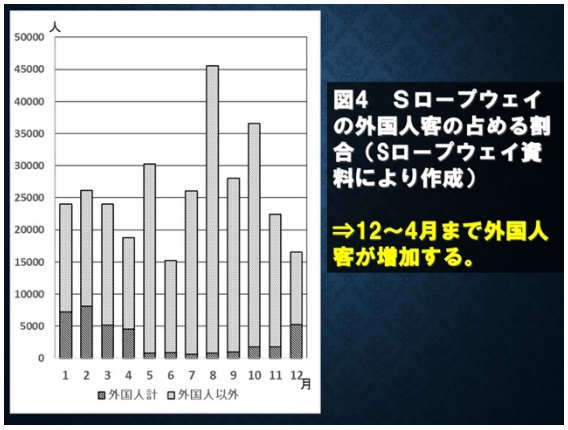

図4　Sロープウェイの外国人客の占める割合（Sロープウェイ資料により作成）

⇒12～4月まで外国人客が増加する。

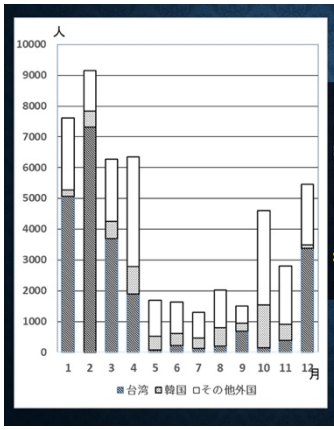

図5　Sロープウェイの国籍別外国人乗降客数の推移（Sロープウェイ資料により作成）

⇒12～3月の台湾からの乗降客の多さ。

4.季節的変動のある中部地方の観光地：奥飛騨地域の事例

- これは、前述の台湾からの団体ツアーが、冬季に閉鎖されるアルペンルート等の代わりにSロープウェイを訪れているためであると思われる。本来このロープウェイは夏季に利用客が多い観光施設であったが、台湾からの団体ツアーが訪れることで、冬季の利用者が増加している。
- またSロープウェイの利用とともに、台湾からのツアーが「雪遊び」の時間をとることが多く、この地域のスキー場ではそのような施設を新たに設けており、地域の観光の動向にそれなりの影響を与えつつある。

5．おわりに

- 中部地方に多く訪れる台湾からの団体ツアーは、バスでの移動を伴うが、一部の重要な観光地が冬季閉鎖されるために「冬季用ルート」を持っており、12月と4月に切り替えが行われる。
- 奥飛騨地域では、代替観光地となるSロープウェイにおいて、12月から3月に台湾からの観光客が顕著に増加しており、それに伴って「雪遊び」の場所も設けられるなど、それなりの影響がある。特に一度の多くの外国人客がもたらす団体ツアーの季節的変動は、観光地側への影響を与えやすいものと思われる。

アジアのオルタナティブツーリズム研究プロジェクト
自由懇談

澁谷鎮明（国際関係学部国際学科教授）：フフムチル先生、こんにちは。

フフムチル（内モンゴル大学蒙古歴史学系准教授）：こんにちは。今、別室で呼春君のポスター発表聞いてきました。

澁谷：どうでしたか。

フフムチル：研究テーマは非常に面白いと思いますし、こういう旅行関係の専門知識を身に付ければ役に立ちますね。内モンゴルの今の旅行産業や観光産業はひどい状態ですから。

澁谷：そうですか。

フフムチル：だから、そういう専門知識をもった人材が必要なのですが、今回の発表では、事例が少ないから、その辺を指摘しておきました。事例を増やしてバリエーションを付けたら、実態に近づけるのではないかと思います。

澁谷：ありがとうございます。

フフムチル：学校周辺地域の中国人が何を求めて海外に旅行するのかということを研究したら、旅行者の心理を利用した、資源開発ができるのではないかと思いました。

澁谷：岡島さんが入って来られました。

岡島健（中部大学国際・地域推進部国際連携課長）：呼春さんの説明を聞こうと思ったのですが、もう終わっていました。

澁谷：そうですか。内モンゴルからメールいただきました。内モンゴルの学生さんたち、日本に来られるかもしれませんね。

岡島：そうですね。まだ、ちょっと詳しいことが分からないのですが、彼らも、さすがにかなり待たせてしまって申し訳ないので、できるだけ早く来られるようにしたいですね。ガンダルさんから日本語と中国語でメールをいただきました。

フフムチル：私も、この前、アスハンに会ったのです。日本語の試験を受けに来て、それが通ったかどうか分からないけれど、一応日本語が前より、だいぶうまくなりました。

岡島：そうですね。皆さん、日本語の授業、オンラインですけど、すごく頑張っていらして。

澁谷：そうですね。オンラインでここまで上達するって、私思わなかったのですが、なかなか皆さん頑張ってくれました。

岡島：はい、頑張ってくれています。

澁谷：大学院の授業もちゃんと受けていますしね。リモートで。大変だと思いますね、本当は。

フフムチル：そうですね。でも、今朝、ニュースを見ていたのですが、3月1日から、何とかなるというような気がしているのです。もう一つ、先生にちょっと聞きたかったのです。今度、また数人入学希望者がいるのですが、どうすればいいかなという話を聞きたかったのです。

澁谷：多分、うちの大学院にリモートで受け入れるのは、今のところ難しいかもしれませんが、来られるのであれば、やり方はあるのではないかと思います。

フフムチル：そうですね。私も3月1日から日本が、開放するということになったら、行けることは行けると思うのです。ただ、面接などは多分、オンラインでやらなくてはならないと思いました。

澁谷：そうですね。

フフムチル：中国は、まだ開放してないので、開放することにしても、コロナ禍で、先生たちが、こちらにきて対面で面接するのは、ちょっと無理かなと思います。もし、リモートが難しいのだったら、必ず行くのですが、もし、その両国側からの、特に日本が留学生を受け入れることが可能になったら、面接をオンラインでやってみるかなと、先生と相談したかったのです。それは、私の個人的なことですが。

澁谷：多分、大学院のほうで許可が出れば、協定があるので、リモートの面接もできるのではないかと思います。

フフムチル：そうですね。

澁谷：ただ、今となって、いつごろやるか問題もちょっとありますね。

フフムチル：そうですね、ここしばらくコロナ禍になってしまったので。

澁谷：今、ぜひ行きたいというのは、何人ぐらいでしょうか。

フフムチル：4 人です。もし、リモートでできればという話もしたのですが、そのときリモートでも構いません、まずリモートでも参加して行けるようになったら、そのときに行くという感じでした。

澁谷：そうしたら、岡島さんにも、この前お話をしましたけど、ちょうど呼春君もいますけどね。3 月中旬ぐらいに、うちの大学院の話を大学の紹介も含めてしたらどうかと思います。zoom でと考えているのですが。そこで、その時間までには大学院の決定が間に合わないのですが、紹介だけでもできるかなとは思います。

フフムチル：私も、学生達には、そのことを伝えています。ただ、本来ならば、2 月 20 日に、学校が始まるのだけど、一昨日から、突然、新たな感染者が増えてきて、きょうは、もう 30 人近くになっているのです。

澁谷：そうですか。

フフムチル：学校の学生たちは、既に切符を買っていたのですが、それを全部返金してもらって、家に待機するということになっているのです。でも、zoom などでやるのだったら、ほとんどの人が自宅からできるので大丈夫だと思います。いつ学校が再開するかは分からない。取りあえず、私たちもオンライン授業になる方針になっています。

澁谷：ちょっと、思うのですが、日本に来たい子がいるとして、例えば、現在の状態では中国よりも日本のほうが感染者数がものすごく多い状態ですね。内モンゴルの学生たちがこの状態で来る、来ようと思うかなということを考えてしまいますね。

フフムチル：若者たちは、あまり、これを気にしていないのですよ。

澁谷：気にしてない。

フフムチル：感染しても、どうせ治るから、という感じです。

澁谷：そうですか。そうなのかもしれないけども。

フフムチル：長期的に見てもインフルエンザみたいに、人類と共生するというのは、みんなそう考えているみたいです。

澁谷：そうですね。

フフムチル：だから、自分の体をよく鍛えて、感染しても、すぐ治るようにする。そうするしかないかなと思います。ずっと、困っていても、なかなか前に進まないですから。人生の雇用関係っていうのがあって、日本に行って何々の勉強をして、もしくは日本で働きたいと

か、そういうふうに考えている人たちもいるのです。だから、コロナだけでは人生の計画を変えることにもならないですから。

澁谷：そうですね。そうか、なるほど。岡島さん。中国からの学生さん、内モンゴルからの学生さんが入ってきたときに、ワクチンの問題とかはあるのですか。

岡島：まだ政府の決定が分からないのですが、前のときは、中国のワクチン、シノヴァクですか。

澁谷：はい。

岡島：それを認めていなくて、待機期間が長めになっていたのです。2 回ワクチン打ったという証明書があれば、待機期間も短いということだったのですが。入ってこられないことはなかったのですけが。今回はどういうふうになるのか、細かい発表がなくてわからないのです。ただ、ワクチンを打っていないからとか、中国のワクチンが認められないから入国できないということは、恐らくないと思います。

澁谷：それはないと。

岡島：ただ、待機期間が長くなったりとか、そういう不都合はあったりするかもしれないです。

澁谷：あとは、もう一つ、以前と比べて、待機期間が短いのですよね。

岡島：短いです。長くて 7 日だと思います。

澁谷：なるほど。そうすると、そこにかかる費用もだいぶ楽になりますね、以前よりは。

岡島：そうですね、ひょっとしたら自宅待機も、それで可になるかもしれないので、そうすると、到着したときに検査をして陰性ならば、24 時間以内なら公共交通機関でも移動できるという。そうすると、高いハイヤーで移動しなくてもいいので楽です。

澁谷：そうですね。

岡島：いろんな条件が楽になるかもしれないです。以前、14 日間必要だったときよりも、大分、恐らく安くなるのではないかと思います。

澁谷：分かりました。

岡島：どういう順番で入ってこられるようになるのかは分からないです。以前は在留資格認定証明書の古い人からでしたから。今回どうなるのか、留学生は 15 万人ぐらい入ってこられていないという話もあるので。そのうち、5,000 件が上限では、さらにほかの入国者も含めるとなると、順番待ちになって時間がかかる可能性はあると思います。

澁谷：なるほど。

岡島：まだ、全然詳しい通達がないので分からないです。

澁谷： 4 人の院生さんは 9 月入学なので、次の 9 月になる前に卒業になりますね。

岡島：そうですね。

澁谷：9 月入学になると思うのですが、確か、修論の提出時期が早いのですよ、9 月入学の人は。

岡島：何月ぐらいなのですか。

澁谷：5 月末とか、6 月。それでも来るか、という問題もあると思います。

岡島：それは、やはりご本人たちに来たいかと聞いた上でないと。前は、それでも来たいとおっしゃっていたような気がするのです。

澁谷：そうですね。僕は、そのときにガンダル君にメールを打ったのですが、来る意味があるのかという話だったですね。先々日本にいるなら意味がある、という返し方をした記憶があります。例えば、日本の博士後期の大学院に行きたいならば、協定校入試はないですから、日本で試験受けるしかない。

岡島：そうですね。

澁谷：そうすると早めに、少しでも早めに来ておいて受けるという選択肢があるかなと思ったのと、もう一つは、日本にある資料を使おうとしている場合には、来たほうが得だろうというふうにお話をした記憶があります。

岡島：そうですか。ガンダルくんは来たいのではないかと思います。これだけ待って、本当に来たいのですというメールでした。

フフムチル：そうですね。今までオンライン授業に参加してきた、この 4 人だと、多分、みんな来たいし、これからも数年間日本にいたいのではないかなと思います。博士後期に入るにしても、あるいは日本で就活したいという考えを持っているかなと思いました。

澁谷：はい。

フフムチル：もう一つは、ずっと日本に行かずに日本の大学の修士号を取ったときに、中国の教育法では認定はするのですよ。それに問題がないかどうかという話で、これは恐らく中部大学のほうが、中国の在日、駐日、中国大使館などと、何らかのやり取りをしないといけないと思います。日本に行ってないのに――パスポートを見ると分かりますが――一度も行ってないのに、日本で学位を取ったといっても認定してくれないですから。

澁谷：なるほど。

フフムチル：そうした問題もあります。博士前期課程が認定されなければ、内モンゴルでも博士後期課程には入れないし、就職活動のときに国で認定されていない外国の学位は認められないですから。

澁谷：そうですか、なるほど、それ重要ですね。

フフムチル：そうですね。もし、それが認定されるのだったら、もしかしたここの博士後期に入る人もいるかもしれないですし。

澁谷：だとすると、修士号のためにも来たほうがいいという考え方もありますね。

フフムチル：そうですね、一度も日本に行ってないのに、この修士号はどうやって手に入れたのかということになります。なぜ、こういうことを言っているかというと、タイかベトナムだったかの大学からコロナ禍の間に、学位を取った人がたくさんいるのです。それはお金を払えば、学費がもらえてしまうので、それで博士号を持ってきて大学に就職したりする人もいる。それを防ぐためにも中国の教育部から文科省に対して、新しい規則ができて、もし、卒研をする前に、最低どのくらいの期間留学先の国に滞在していなかったら、学位は認められないという規則があるのです。

澁谷：なるほど。

フフムチル：だから、認められなければ、もう、かわいそうじゃないですか。

澁谷：そうですね。あとは、指導するほうから考えたときに、やはり来たほうが楽ですし。

フフムチル：そうです。もちろん。

澁谷：そうですよね。修論とかは、かなり個別指導的になっていくので、これが、あれがと言えないと、結構つらいですね。見ていて。来てもらったほうがいいな。

フフムチル：そうだと思います。

澁谷：いろんな意味でそうですね。岡島さん、いつごろ来られそうでしょうかね。この感じではかなりかかりますか。

岡島：分からないですね。3 月 1 日からなので、恐らく来週中には政府からの方針が出ると。それからすぐゴーなのですが。でも、彼等は、割と在留資格認定証明書が古い人たちなので。
澁谷：そうですね。
岡島：大分、早いかもしれない。もし順番なら、早く入っていいことになると思います。
フフムチル：そうですね。在留資格が与えられたときから計算することになったら、多分、順番的には早いかもしれないですね。
岡島：早いです。
フフムチル：恐らく、そういう基準があるでしょうね。どっちが先にというのは。
岡島：そうですね。
澁谷：ないと困りますものね。
岡島：入国者は留学生だけでもなさそうですし。
澁谷：お話できてよかったです。
フフムチル：私もずっと先生と、このことについてお話ししようと思っていました。でも、年度末だから、先生も恐らく忙しいだろうと思って、メールはしてなかった。
澁谷：メールしてください、いいですよ。呼春君、発表してどうでしたか。
呼春：自分の意見を紹介しました。
澁谷：紹介できましたか。
呼春：はい。
澁谷：まさか、フフムチル先生が来るとは思わなかったかな。
呼春：はい。そうです。
澁谷：びっくりしたでしょう。
岡島：呼春さんは、フフムチル先生に教えていただいていたのですか。
フフムチル：私の学生です。
岡島：そうですか。
澁谷：そうなのですか。
フフムチル：はい。
澁谷：それは知らなかった。
フフムチル：私、あまり、大して教えていないですが。何を教えたのでしたっけ。観光心理学みたいな、そういう授業を教えた気がしますね。でも、クラスの担当、担任ではあった。
澁谷：クラス担当は大事ですよね。
フフムチル：はい、呼春君と、よくお酒を飲んでいました。
澁谷：そうなのですね。呼春君は、早く来ていてラッキーでしたね。
フフムチル：そうですね。
澁谷：それなりに大変だとは思うけど。
フフムチル：ちょうど、私、早稲田にいたとき、彼東京にいたので。
澁谷：そうでしたね。
フフムチル：そこで、東京で会ったのですが、今日、聞いてみたら、日本語はそのときより大分上手になりましたね。
澁谷：そうですね。
フフムチル：はい。

澁谷：みんなも、そう思います。
フフムチル：はい。
澁谷：去年、試験受けたときに、すごく苦労していたので、彼は。心配していたのですが、全然、問題ないですね、今は。
フフムチル：そうですね、日本語は結構うまくなりましたね。だから、私も聞いていてうれしかったです。
澁谷：それは何よりです。
フフムチル：はい。急いで帰って来るよりは、ずっと日本にいて、日本に生活してもいいですよ、ここに。
澁谷：きょうのウリハン先生、あまり質問が出なくて申し訳なかったんですけど。
フフムチル：いいえ、大丈夫です。彼女は、総合討論の後に、会社で用事があると言っていましたので。
澁谷：そうですか。修士号を取ってイギリスから帰ってきたばかりですか。
フフムチル：そうなのです。
澁谷：素晴らしいですね。
フフムチル：でも、マネジメントを専門に学んだのですが、観光学ではないので、あまり専門的な話はできなくて申し訳ないと私に言っていたのです。でも、私も、なかなか準備する余裕がなかったので、彼女に頼んだら、引き受けてくれたので、私もありがたかった。
澁谷：でも、マレーシアの人の発表と、彼女の発表で、何となく全体像が見えた気がするのです。
フフムチル：世界各地の事例というか、そうですね。
澁谷：ちょうど反対みたいな感じでよかったと思います、本当に。
フフムチル：そうですね。でも、この前、ウリハンが私に言っていたのは、内モンゴルの観光業というのは、コロナ禍がなくても全然ダメだって。
澁谷：そうなのですか。
フフムチル：これ、どうにかしないとって。
澁谷：そうですか。
フフムチル：はい。中国のほかの、特に東南部の地域に比べると、全然観光業がダメなのです。
澁谷：そうですか。
フフムチル：はい。後進地域です。
澁谷：国内から遊びに来る人がいそうですけど、そういうわけでもないのですね。
フフムチル：内モンゴルには夏の間に 1 ヶ月、2 ヶ月ぐらいは観光客が来るのですが、ほかの季節ではあまり来る人がいないのですよ。しかも夏が短いし。
澁谷：確かにそうですね。季節産業ですね。なるほど。
フフムチル：自然環境が一つのメインだけれども、やはりこういう面での人材がなかなかいないから、それは最も大きな問題かなと思いました。
澁谷：なるほど、なるほど。そうか。
岡島：澁谷先生は、内モンゴルに行かれたことはありますか。
澁谷：何度も、呼んでいただいたというか、行きました。フフムチル先生にお世話になりました。
フフムチル：いいえ。
岡島：やっぱり観光もなさって。

澁谷：いろんな人にいろんなところに連れていってもらいました。
岡島：そうですか。
澁谷：4～5 回は行ったのではないですかね。
フフムチル：そうですね。私が内モンゴル大学に来てから、先生が、多分、3～4 回ぐらい来たのではないかと思います。その前にも、来ていたという話しも聞いています。
澁谷：はい、そうですね。
フフムチル：このコロナ禍が何とかなったら、またぜひ、来てください。岡島さんもぜひ、いらっしゃってください。
岡島：そうですね、ぜひ行きたいです。
澁谷：ぜひ。
フフムチル：あまり見るものもないのですが。歴史とか、そういうものの痕跡があまり残っていないし、もともと遊牧民の居住地域という、それと海に遠いところなので、あまり都会とか、そういうのを昔から築いた歴史がないので、お寺は数件ぐらいあるだけで、古い町とかも全然ないのですよ。
澁谷：でも、前に柳谷先生が一緒に内モンゴルに行ったじゃないですか。
フフムチル：はい。
澁谷：柳谷先生は食べ物がおいしいと。また行きたいと言っていましたよ。
フフムチル：確かに観光しに来る人は、たまに食べるものだからおいしいかもしれないですね。
澁谷：内モンゴルは肉だけじゃなくて、農業地域もあるので、ちょうどバランスがいい気が個人的にはします。
フフムチル：食べ物はいろいろありますよ。内モンゴルには、漢民族も多く暮らしているので。
澁谷：そうですよね。
フフムチル：中華料理という漢民族の食文化は、本当にいろいろありますから。モンゴル人みたいに、肉ばかりじゃないですから。
澁谷：ヨーグルトもおいしかったですよ。
フフムチル：はい、そうですね。
澁谷：非常によかったです。あれは、牛乳系ですか。
フフムチル：はい、牛乳を発酵させた。
澁谷：なるほど。
フフムチル：ヨーグルトとか乳製品と、肉食と、あとは中華料理。
岡島：食べ物がおいしいのはとても大事だと思います。
フフムチル：そうですね、それは一つの農牧折衷帯としての強さですね。
澁谷：ですよね。泊めてもらった内モンゴル大学のホテルでしたっけ。
フフムチル：はい。
澁谷：あそこの 1 階の食堂の食事でさえおいしかったという記憶があります。
岡島：いいですね、中部大学の食堂よりいいのでしょうね。
岡島：中部大学も悪くはないですけどね。
フフムチル：でも、日本にいたころは、あまり食堂の食べ物はおいしいというふうな感じはしていなかったのですが、こっちに帰って来て日本料理屋さんに行くと、昔の東北大の食堂で

出ていたものばかりなのです。私も作るのですが、材料がないから仕方がなく、たまには食べに行くのですが。

澁谷：そうですか。

フフムチル：とんかつや厚焼き玉子とか、から揚げとか。あと、鯖の塩焼き。大体大学の食堂で出ていたものです。

澁谷：そろそろ時間ですかね。5 時半までですね、もう終わっているのかな。

フフムチル：そうですね、5 時半までだったら、5 分押しています。

澁谷：じゃ、フフムチル先生、どうもありがとうございました。

フフムチル：ありがとうございました。

澁谷：また、3 月中旬ぐらいにお願いします。

フフムチル：はい。こちらこそ、よろしくお願いします。

澁谷：はい、じゃ、これで出てよろしいかと思いますので、お疲れさまでした。

フフムチル：お疲れさまでした。

澁谷：呼春君も、お疲れさん。

呼春：お疲れさまでした。

（　　）内＝編集者の追記